



畫本
裁場

川崎の音頭

田

4342
4
8



私一のはいふやと云て回らぬの女を御とらん人仕方の
とまごころの上は金のむしん人よつらけぞと
いふうらふ女中いたがひは張のあつものぞま
されこのむらうもこの大勢の中てゑふ山たて
侍てまいてゐるそのついでさかんよあんなう
まひるすまやんことありやねおらいやう
おしんやうや今まへ海とらん人
ト云て
おき イヤサたは人の中へまゐるやがあつ
て女をさぬし金をさるやうな首とありま
イアうまへ入るまうとらん人よあつ
せぬおやうの方うに隔てゑまへ今まへ
やんしんまうとらんが再とらんぬと云て
貢サレ

其後まもをばやコヤヤいこのあの方飛りつゝあ
りや女のみりつらつて籠をさふまう何
いまい退付と云つとえのまへまうとらん
たを流すト武士の女房おらんりやとらん
ヤアおらんおやうまへんで侍よあつとまやんと
りや其れうらひまへんでとらん何侍
いさうと云ておらんアイとらん何侍
傍案のざんげんとやうておの浪人
まやんとまへんで侍と二世の中へ
とまへんでおらん何侍
何侍
おらん
ハテ



五五
 河尾天
 三林松
 中山文
 村山文



在志六岩治
 万野号
 貢
 穀
 高



其二
真教人
と殺て
右市と
去り
馬

若いんたし入替つては侍勢も遠るをりそを以てハ
負りつちま今田万治を承りて居るの作と侍と青井
下坂の刀を求りよは侍勢へ出立又あつては伯父と
大まさらぬまたのまこれぞ下坂の刀と模合わしひつ
たらんよと云はれりて伯父のふりて武蔵く
差上らりし中りと大まさらぬハ上着尾殿ハ青尾
その侍も方びりめりもさささつて侍せま配
後浪方びりよは縁者さささで下坂浪治と隔て又
方びりよが忠治なとろくろふまぬと幸い道中
わし入替りては小六が忠治なよかろあせま
まよと侍勢へ入替りよは万治りよが方びりよを
世話とら福屋負りよのりよめよは仕立てらまよ

さぬぐにまよととて大うこ十ヲガ九ツ二人のぶがら
命のよい時よアノ負りよは中うよは忠治送眼と合
えかといふおらんれどやて遠るの内よよといは油屋
来りよもよとるるとるり人物よふようつとらつと
万治よはせむれと侍ひたつとまぢやだるまかりし
まよとけいけいけいけいけいおのまよ負りよと侍
これと女房にせうとおまよとて怒りし侍はかろ
よ強有りのいさいいさい トおらんよ ちんごんとこれ
てせうとら志れいさいいさいアあのそんちんごんよ
いさいと云はれまよとるんで女房よ持てまよ
若いそんや小いおらんが方びりよは持てこれ
るうや侍勢とさよく 以て女今とひんくまよ

岩は海女い集くをいぬたの二階へ上るト是より川に
おんどよわう肉をておとるるまぢせいのくましくして
よいしくしくよのやさ トうけい急ぎと向ふ
一さんよまきり出て **まき** 志助万のくく ト方
つうくと肉をめぐり **まき** 志助万のくく ト方
おめくけやうよまてしうさうさうさうま
いあり二人とも件の中うとつうよなうさうさう
んせくやうよせおをつうぬーあうこのよやとい
やい トり内おさん二ういの **おさん** 貞さんよごさんたり
せうしをあげ **おさん** ころーやどふあてて
まき おさん トトよりさ **おさん** ころーやどふあてて
まき 侍の中と半てまてけのさうさうこれらて
屋し中んせ ト屋紙の中へさうんのお紙をへるさうりける
まき ころーやは トおさんひつー中んせうとまき
ころーやせんまうかろうさうまて **紙** の折紙まて

トふとさうへん金一
右の状をさて 一人目まげくりぬふらふとせまてあ
りしんぼとらも麻つうとさけ有さうよその
うん金やうたやうさうらあやうさうさうさう
あやうよおほのながいさうさうさうさうさう
まうさうさうさうこれさやんれさうさうさう
あさやうよ物さうさうさうさうさうさうさう
うんさうさうさうさうさうさうさうさうさう
あさうよまき天の紙をさうさうさうさうさう
まきさうさうさうさうさうさうさうさうさう
らせまははまて指さうさうさうさうさうさう
本持さうさうさうさうさうさうさうさうさう
つひあうさう上係よ侍さうさうさうさうさう

